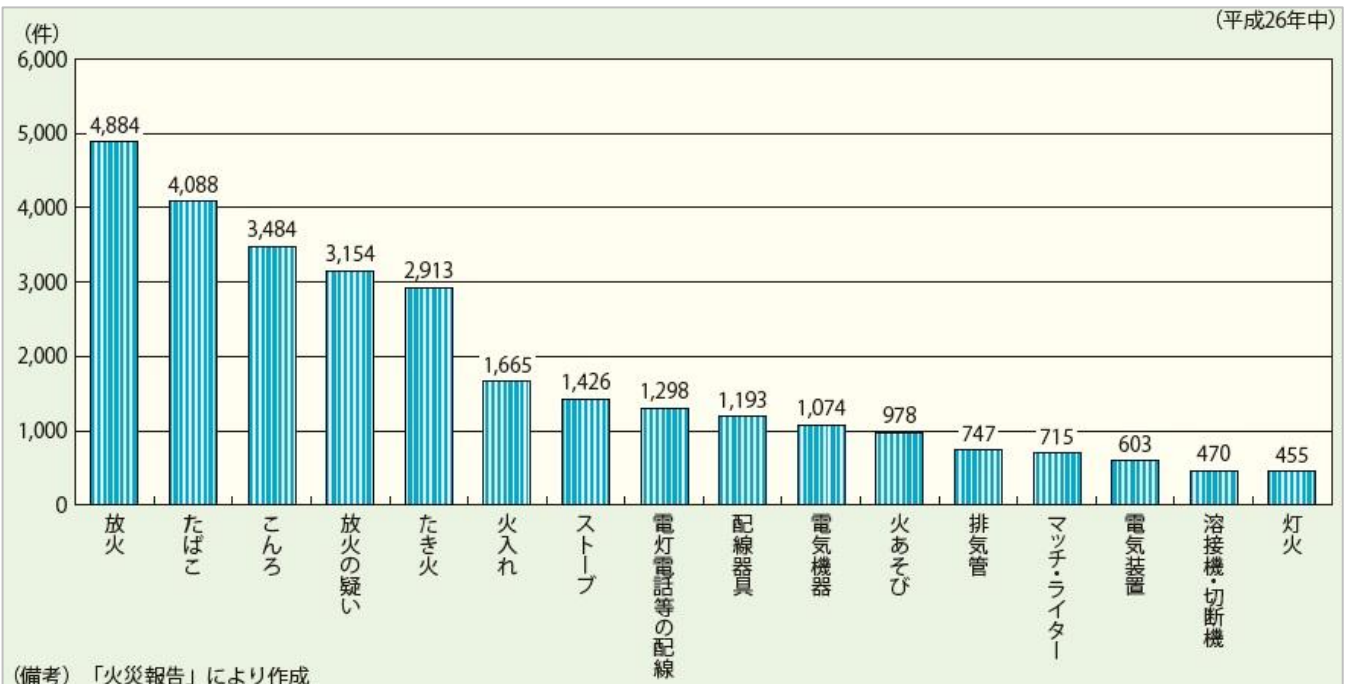


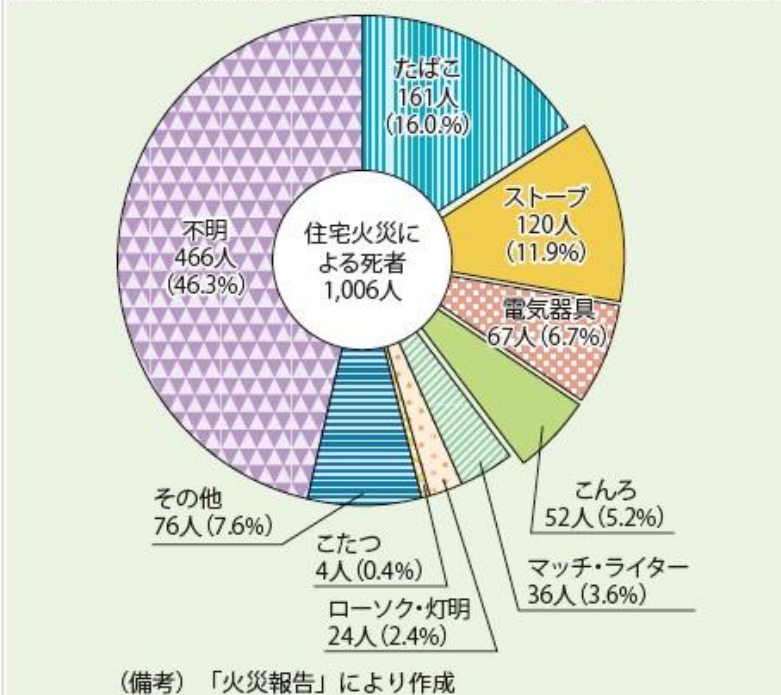
**週刊 タバコの正体**

タバコを吸うためには火をつけなければいけません。そして、吸い終われば必ずその火を消さなければいけません。でも火がついたままのタバコが放置されればどうなるでしょう。その場所に燃えやすいものがあれば火災に発展する事は簡単に想像できます。

下の図は総務省消防庁が発表した平成26年度の火災の発生原因別のグラフです。全国で1年間に発生した約4万3千件の火災のうち、左から多い順に並んでいますが、なんと「タバコ」が原因の火災は4000件を超え2番目に多く、全体の約10%を占めています。



住宅火災の発火源別死者数（放火自殺者等を除く。）



さらに、左のグラフを見てください。住宅火災で1006人が亡くなっていますが、そのうちタバコのせいで命を落とした人が161人もいるのです。

もし、タバコに火をつける人がいなければ、4088件の火災をなくし161人の命を救うことができたはずですが。タバコの煙による健康被害に加え、こうした火災による被害も少なくありません。

だから、やっぱりタバコは必要ありませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久